

- (1) 件 名： 「図書館に関する科目のあり方報告書（案）」への意見
- (2) 名 称： 日本図書館文化史研究会
- (3) 職 業： 法人
- (4) 住 所： 〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1 明治大学司書・司書教諭課程
- (5) 電話番号： 03(3296)4517
- (6) 意 見

日ごろは、図書館の発展のために種々ご尽力いただき、ありがとうございます。私ども日本図書館文化史研究会は、図書館やメディアの歴史を研究する図書館職員や研究者の団体です。

さてこのたび、文部科学省生涯学習政策局に設置された「これからの図書館の在り方検討協力者会議」（以下、協力者会議）では、大学において履修すべき「図書館に関する科目」の改善をおもな内容とした「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について（案）」（以下、「報告書（案）」）を報告されました。

私どもは、この「報告書（案）」を、大変によく吟味されたものであると高く評価します。しかしながら、これからの司書の養成内容に必要な視点として、歴史的な観点が重要であることを、より鮮明に打ち出す必要があると考えます。そこで「報告書（案）」に基づき、これを補強する立場で、「図書館に関する科目」の内容と在り方につきまして、本研究会としての意見等を以下に申し述べますので、ご配慮方、よろしくお願い申し上げます。

「報告書（案）」では、司書に求められる資質・能力として、「将来のビジョンをもつこと」が挙げられていますが、このためには、行政知識や情報技術能力を磨く前段として、図書館の歴史に対する十分な理解が必要と考えます。現代を歴史の流れのなかに位置づけて考えることができない司書には、「これからの図書館像」を描くこともできないと思います。

図書館に関する科目内容の基本的な考え方として、学生が実際の図書館の現状を十分理解し、関心を持つように配慮するとともに、図書館の社会的意義や必要性などの理解を図るためには、歴史的な視点が不可欠です。図書館の歴史を学ぶことは、図書館に対する認識を深めることになります。

図書館業務に従事する基礎的な知識として、法学、社会学などとともに、歴史学の知識を学習することが重要と考えます。「報告書（案）」では、全体の内容が現状の制度・技術の理解にやや偏っており、将来展望の形成には不十分ではないかという危惧を感じます。

私どもは、上記のことから、「基礎科目」に図書館の歴史を学ぶ科目を設定することが望ましいと考えます。しかしながら、全体の科目数などの問題から、新たに「基礎科目」を追加することは困難であると推定されます。そこで、極力各科目のねらいに歴史的な視点を明示し、内容に歴史に関連する項目を設け、必要最小限の知識を全員が得られるようにすることが望まれます。

このことについて、私どもと協力者会議の認識はほぼ一致していると思われまます。「報告書（案）」では、この点について一定の配慮がすでに盛り込まれています。「図書館概論」の科目のねらいに「図書館の歴史と現状」が、内容 5)に「図書館の歴史」が挙げられてい

ます。また、「図書館情報資源概論」でも、科目のねらいに「(略) 図書館情報資源について…歴史…等の基本を解説する。」があり、内容 1)に「(略) 資料の歴史を含む」が挙げられています。

そこで次の 2 点を加えることを提案します。

① 「図書館サービス概論」の科目の内容について

内容 2)に、「図書館サービスの変遷」があるので、図書館サービスの歴史的理解を促すよう、ねらいの文を「(略) 接遇・コミュニケーション等の課題の現状と歴史を解説する。」に改める。

② 「情報資源組織論」の科目の内容について

内容 2)の「書誌記述法」と 4)の「主題分析と分類法」に、目録規則や分類法の歴史を学習するように、ねらいの文を「(略) 書誌データの活用法やそれらの歴史等を解説する。」に改める。

次に、「選択科目」の科目名とその考え方について、意見を述べます。

「図書・図書館史」など種々の選択科目が設置されたことで、各大学がその特色を生かしたカリキュラムの編成が可能となりました。この点について、私どもは「報告書 (案)」を支持します。そしてより一層の充実をはかるために、次の 2 点を提案します。

① 「図書・図書館史」の科目の内容について

ねらいの文を「必修の各課目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書をはじめとする各種図書館資料の、(以下略)」に改める。

現在図書館で扱う資料の多様化が進んでいます。このことについても協力者会議は十分に認識しておられ、これまでの「図書館資料」にネットワーク上の情報資源を加え、これらを包括するものとして「図書館情報資源」という名称を採用されました。

ところが一方で「報告書 (案)」では、「図書・図書館史」の科目名で、そのねらいも「図書の形態、(略)」となっており、図書の歴史のみ学習すれば事足りるよう受け取られるものとなっています。図書館資料の多様化に対応するため、科目名を「図書館情報資源と図書館の歴史」とするのも一案と考えます。しかし科目名は簡潔であることが求められると推察されます。そこで科目名はこのまま「図書・図書館史」とし、そのねらいの文で図書以外の資料の歴史等も扱うことを明確に示すべきと思われます。

② 「図書館情報資源特論」の科目の内容について

ねらいの文を「(略) 図書館情報資源に関する領域から、資料の保存・劣化対策、アーカイビング等の課題を選択し、(略)」に改める。

この科目のねらいは、やや抽象的であると思います。図書館情報資源に関する領域の課題のなかから、重要な課題を具体的に示すことが適切であると考えます。

以上